

## 「松下アジアスカラシップ」詳細

助成番号	研究テーマ(留学目的)		
	留学国	留学機関	留学期間
	氏名	所属	区分
99-004	日韓間における文化摩擦と文化交流の方向性 —韓国における日本大衆文化開放をめぐる諸問題を中心に—		
	韓国	ソウル大学	2000.2 ~
	村上 純	大阪大学大学院	院生博士

### 研究テーマ(留学目的)の説明 (助成決定時のテーマ。文責は本人)

現代韓国における文化摩擦の例の一つともいえる日本大衆文化開放の問題を中心的テーマとして掲げ、日本および韓国双方からの視点をもとにその文化的意義や今後の文化交流の方向性などについて考察する。

韓国では、高度経済成長を機にソウルオリンピックを経て本格的に外国の資本・文化が流入し始める。90年代に入ってから実質的な意味で「国際化」「グローバルゼーション」が叫ばれるようになるが、日本大衆文化に関しては国家レベルにおいて一貫して受容を禁止する政策をとり続けてきた。世界的なボーダレス傾向の中で、近年特にその開放是非をめぐる議論が交わされてきており、金大中政権の方針では、一部の日本大衆文化に限り、段階的な解禁措置がとられた。解禁宣言の流れをくみ、今後しばらくは日本大衆文化に対する社会的関心が高揚するであろうと思われる。

韓国で議論されている日本大衆文化は、映画・テレビ・歌謡曲・雑誌・漫画・アニメーションなどメディアを媒体としたもののほかに、カラオケ・パチンコ・ゲーム機などの娯楽文化や、ファッション・テレクラ・援助交際など風俗及びサブカルチャーも含まれる。これまで、このような日本大衆文化は法的な意味では開放されていなかったものの、実質的には、若年層を中心とした一般市民の生活様式や消費文化の中に広く普及浸透しており、制度よりも現実が先行したかたちとなっていた。ボーダレス化の進む市場経済システム社会において、国家による文化政策と現実の消費文化との間にギャップが生じている例であるといえる。また、この問題は日本との関係においても文化摩擦を引き起こす結果となり、今後の両国間文化交流の方向性に大きな影響を与えるであろうと思われる。

本研究では、韓国における日本大衆文化開放の問題を通じ、日韓間における文化摩擦及び文化交流について学術的な立場から体系的かつ実践的に取り組み、時事的な報告もあわせながら21世紀の日韓関係に向けての提言を行っていくことを目的としている。